

平成 27 年度第 4 回
杵島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 28 年 1 月 12 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第3回新高校設置準備委員会報告まとめ 1
資料 2	新高校の学科構成について 4
資料 3	新学科での取組について 6
資料 4	校舎制に関する検討課題について 10
資料 5	他県事例 13
資料 6	新高校設置準備委員会設置要領 25
資料 7	杵島地区新高校設置に向けた検討体制 27
資料 8	杵島地区新高校設置準備委員会委員構成 28

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第3回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 10月23日（金） 10時～11時30分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 10月26日（月） 15時～16時30分 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 10月27日（火） 10時～11時30分 塩田工業高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 9人 県教育委員会関係委員 7人
唐津地区 ・ 巖木高校	平成27年 10月27日（火） 15時～16時 （太良高校視察は、13：45～） 太良高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 10月29日（木） 15時～16時30分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 7人

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認 学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新学科を設置する案も資料には示されているが、ニーズがあるだろうか。学科等で特色を出すより、普通科と商業科の組合せが良いと思う。 ・ 普通科で基礎学力を身に付け、進学して専門性を身に付けるという考えでもいいのではないか。新高校の学科構成は、普通科120人、商業科80人を募集定員とするパターンがいいと考える。 ・ （新高校の学科等について）「中学生にアンケートをしてはどうか」という意見があったが、中学生にニーズを答えさせるのは難しいと思う。学科に関しては、大人が時代を見ながら決めてやるべきだと思うが、大学入試制度が変わったり、技術革新も進んだりする中、固定化した学科よりも、例えばコースにする等、柔軟性を持たせた方が良いのではないか。 ・ 医療・看護・介護分野へ進学する生徒が多い現状を踏まえると、そういった分野のコースを作ることも考えられると思う。 ・ 普通科と商業科を融合したような学科で、進学にも就職にも対応させるとか、文理学科のような学科で、文系にも理系にも対応させるようなことはできないか。

地区	主な意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科と商業科を一括して募集し、2年次から学科ごとに分ける方が子ども達のニーズに合うのではないか。
伊万里地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認 学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料に学科構成のパターンが複数示しており、農業科だと「生物生産科」、商業科だと「商業科」が必ず入っているが、それらが中心になると理解してよいか。 ・ 資料の学科パターンに新高校の学科の一つとして農業系とか商業系の融合学科というものが示されているが、具体的な構想を示してほしい。 ・ 生徒募集は農業科と商業科でくくり募集を行い、2年次からコース選択のような形を取るわけにはいかないのか。 ・ 新高校の募集定員は200人と決まっているが、これを5学級ではなく、6学級にすることはできないのか。 ・ 地方創生が議論される中、産業界からの声を聞くために、商工会議所や農協などの方に、この会に参加してもらってはどうか。
嬉野地区	<p>「めざす学校像」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域社会に貢献できる人材を育成する学校」とあるが、「地域」を無くして、「社会貢献」とした方が広がりがあるのではないかと。 ・ 地域に必要とされる学校でなければならない。やはり「地域」は必要ではないか。 ・ 「めざす学校像」には「グローバル」より「国際化」の方がふさわしいのではないかと。 <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工業科の場合は、資格取得や専門の学習が大変になるので、1年生の時から専門的な勉強をさせた方がいい。 ・ 企業側としては、工業科の専門性は高い方がいい。総合学科は専門性の深い学習ができているか疑問を持たれる。専門学科を残してほしい。 ・ 総合学科の福祉系列も、国家試験を取らせるために1年生から専門的な学習をさせている。他の総合学科を参考にして、工業の専門性についても工夫できるところがあるのではないかと。 ・ 平成30年度を100人ずつで募集できないか。 ・ 小規模化していく中で、工業の小学科については、産業界の意見等も聞く必要があると思う。
唐津地区	<p>「めざす学校像」について 事務局案のとおり承認 教育内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校時についての校内検討では、始業時間を変えないで、放課後の時間を確保するという案も出た。遅い校時の太良高校と違えることで、学校選択の判断材料のひとつとなるのではないかと。 ・ 不登校経験や発達障害のある生徒も通学しやすいよう、太良高校のように始業時間を遅らせる案が良いのではないかと。

地区	主な意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巖木高校の場合、「地元の協力」という際、昔の巖木町であればわかりやすいが、今は唐津市ということもあり、「地域」「地元」のとらえ方が難しい。
鹿島地区	<p>「めざす学校像」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格が異なる2つの高校を一緒にして、新たな学校づくりをするという方向で、それぞれの学校の良さをうまくつなげて「めざす学校像」を作っていると思う。 <p>事務局案のとおり承認</p> <p>学科構成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科と専門学科から40人ずつ減らすパターンが現実的と思う。ただ、どちらを先に減ずるにしても、理由の整理が必要である。 ・ 組合せは、普通科160人、商業科40人、食品調理科40人が良いのではないか。 ・ 平成30年度の40人の定員減を、普通科と専門学科から20人ずつの減とできないか。

資料2 新高校の学科構成について

第3回設置準備委員会提示案

- 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方
「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。
- 2 杵島地区新高校学科構成について

(1) 平成27年度の学科の状況

学校	学科		募集定員	学級数
白石高等学校	普通科		160人	4
杵島商業高等学校	商業科	商業科	80人	2
		情報処理科	40人	1

(2) 募集定員の見込

（平成27年度）

白石高等学校	160人（4学級）
杵島商業高等学校	120人（3学級）

（平成30年度）

杵島地区新高等学校	200人（5学級）
-----------	-----------



(3) 学科構成パターン

平成30年度				
パターン	学科	小学科・コース	募集定員	学級数
パターン①	普通科		120人	3
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン②	普通科	普通コース	80人	2
		普通系新コース※1	40人	1
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン③	普通科		80人	2
	普通系新学科※2		40人	1
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
パターン④	普通科		80人	2
	商業科	商業	80人	2
		情報処理	40人	1
パターン⑤	普通科		80人	2
	商業科	商業	40人	1
		情報処理	40人	1
		新小学科	40人	1

※1 普通系新コースとは、国際コース、文理コース、体育コース等である。

※2 普通系新学科とは、理数科、国際科等である。

第3回設置準備委員会での意見

- ・ 普通科や商業科に、国際化などに対応した新学科を設置するという案も示されているが、そのようなニーズは本当にあるのか。学科で特色を出すより、**普通科と商業科というパターンがいい**と思う。
- ・ 入学してからの進路選択の幅が広いのは普通科だと思うし、基礎学力を高めるというスタンスから、**新高校の学科構成は、普通科120人、商業科80人のパターンがいい**のではないかと考える。
- ・ 学科に関しては、大人が時代を見ながら決めてやるべきだと思うが、大学入試制度が変わったり、技術革新も進んだりする中、**固定化した学科よりも、コースにして柔軟性を持たせた方が**良いと思う。
- ・ **普通科で、しっかりとした基礎学力を身に付け、進学して専門性を身に付ける**というスパンでもいいのではないかと考える。
- ・ 現在の卒業後の状況を見ると、**医療・看護・介護分野へ進学する生徒が多い**。現状を踏まえると、そういった分野のコースを作ることも考えられると思う。



学科構成に関する事務局案

1 学年 5 学級 (200 人)

- ・ 普通科 3 学級 (120 人)
- ・ 商業科 2 学級 (80 人) [商業科 1 学級 (40 人)、情報処理科 1 学級 (40 人)]

(理由)

進学及び就職を希望する、地域の生徒保護者のニーズに幅広く対応できる。

近年の志願状況から考えると、両学科の募集定員から 1 学級 (40 人) ずつ減じるのが妥当。

新しい学科を設置するよりも、普通科のままにしておく方が、今後の大学入試制度改革や社会情勢の変化等に対応しやすい。

学科内にコースを設定したり、クラス編成を工夫することによって、生徒の進路希望や専門性の獲得に対応することができる。

資料3 新学科での取組について

新高校普通科に関する想定

【 普通科 】

(1) 目標

- ・ 国公立大学をはじめとする4年制大学、短期大学、看護・医療系を含めた専門学校等、生徒の多様な進路希望実現に向け、確かな学力をつけさせる。
- ・ キャリア教育を充実させ、明確な進路意識の涵養に努める。
- ・ 文武両道（勉学と部活動の両立）を実現させ、豊かな心と逞しい人間性を身につけさせる。
- ・ 英語教育に力を注ぎ、グローバル社会を生き抜く力の礎を築く。

(2) 育てる生徒像

- ・ 『挑戦し続ける生徒』
- ・ 『忍耐力のある生徒』
- ・ 『豊かな心を培う生徒』
- ・ 『自主自律の精神と実行力のある生徒』
- ・ 『感謝の心をもつ生徒』

(3) 教育体制

【1年次】基本的な生活習慣の確立と国英数の基礎学力の養成、進路ガイダンスの充実

特進クラス

基本的な学習内容を理解させた上で、アウトプット（演習等）を多くし知識の定着を図る。その上で、より発展的な学習内容を学ばせる。

総合進学クラス

中学での学習内容の復習も含め、基礎学力の定着を図る。

【2年次】受験に必要な基礎学力の養成、進路ガイダンスの充実

文理特進クラス

国公立大学（文系・理系）への進学を目指し、文系では特に英語に重点を置いて指導し、理系では数学Ⅰまで履修させ、3年次の入試に対応できる学力をつけさせる。

総合進学クラス（文系・理系）

文系・理系への進学（私立大学、短期大学及び専門学校等）を目指し、基礎・基本の充実を図る。数学は数学Ⅰ、数学Ⅱまでを履修させる。

【3年次】進路実現に必要な学力の養成

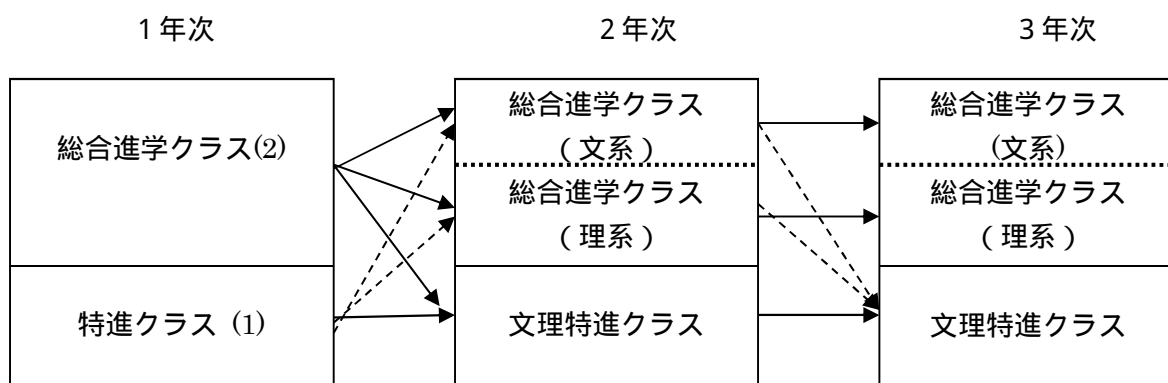
文理特進クラス

国公立大学（文系・理系）への進学を目指し、センター試験・二次試験まで粘り強く取り組みさせる。

総合進学クラス（文系・理系）

生徒が希望する様々な進路希望に柔軟に対応できるようにカリキュラムを準備する。私立大学や、看護・医療系及び一般の専門学校等への進路保障を目指し、クラスを編成する。

【学年フローチャート】



新高校商業科に関する想定

現在の商業科および情報処理科の教育をもとにした学科を設置し、希望進路や専門性に応じたコース制にする。クラスの少人数制やくくり募集なども視野に入れている。

【 商業系 科】

(1) 目標

『 ビジネス実践力を身に付ける 』
～ 即戦力となる社会人を目指して～

(2) 育てる生徒像

- ・ 商品開発やEビジネスなどのマーケティング活動に興味関心を持ち、実践的な学習に対し、自主的に取り組むことができる生徒。
- ・ さまざまな体験活動を通じ、地域社会や経済社会に貢献する生徒。

(3) 教育体制

- ・ 1年次は「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」を履修し、商業の基礎基本を学ぶ。
- ・ 2・3年次より「会計コース(仮称)」「ビジネススキルコース(仮称)」のコース制。
- ・ 3年次に「課題研究」を履修。『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図る。

会計コース

会計分野の高い知識を身に付け、将来事務職を目指す生徒や企業の経理を担う職を目指す生徒を育成する。2年次に「簿記」「原価計算」を履修。上級学校への進学も視野に入れ、3年次には「ビジネス経済」「経済活動と法」を履修し、経済事情にも精通した(強い)生徒を育成する。

ビジネススキルコース

ビジネスマナーを身につけ、販売職を目指す生徒を育成する。基本的なパソコンスキルを身につけるため、ビジネス文書や表計算ソフトの学習も行なう。2年次に「マーケティング」と学校設定科目「マナーとスキル」を履修。第二外国語(韓国語や中国語)を履修し、海外からのお客様の応対ができる程度の会話力を身につける。3年次には「広告と販売促進」「ビジネス情報」を履修。

【 情報系 科】

(1) 目標

『 ICT社会をリードする 』

～使う・使いこなす・表現するプロフェッショナルを目指して～

(2) 育てる生徒像

- ・ ネットワーク情報に興味関心が強く、高度に使いこなすために必要な知識と技能を身に付けることに意欲的に取り組む生徒。
- ・ 情報機器を活用し、情報を表現し、広く外に発信することに興味関心があり、プレゼンテーション能力、クリエイティブ能力の育成に力を注ぐ生徒。
- ・ 情報機器を活用して積極的に地域社会で活躍できる生徒。

(3) 教育体制

- ・ 1年次は情報関連科目の基礎科目「ビジネス基礎」「情報処理」「デザイン表現」を履修する。
- ・ 情報処理科単独の実習室を使い、情報関連科目では複数教員を配置することで学習内容の理解や技能の充実を図る。
- ・ 2・3年次より、「プログラマーコース(仮称)」と「マルチメディアコース(仮称)」のコース制。
- ・ 3年次に「課題研究」を履修。『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図る。

プログラマーコース

「プログラミング」や「ビジネス情報」などを履修し、Java やホームページ言語である HTMLなどを学ぶ。専門学校などと連携し、より専門的なプログラム能力を習得する。3年次に「ビジネス情報管理」を履修し、ネットワーク技術・情報セキュリティの知識を学ぶ。

マルチメディアコース

「情報処理」「ビジネス情報」を履修し、アプリ開発や画像編集などを行い、広告デザインや販売促進方法など、ビジネスに関する表現を学ぶ。また、会社でHPを作成し、管理できる者を育てる。

資料4 校舎制に関する検討課題について

白石高校と杵島商業高校との距離約 5 km

1 行事について

(1) 合同実施が望ましい行事

【例】各種式典、学校祭、修学旅行、宿泊研修、高校総体壮行会、芸術鑑賞会、全校集会、学年集会等。

(2) 行事の際の移動

【例】

- ・ 式典の場合は大型バスをチャーター（往復）し、一方の学校で実施（入学式・卒業式は生徒＋保護者）。
- ・ 終日あるいは半日実施の行事、また、校外での行事については、各自で会場へ集合。
- ・ 合同行事の機会を利用して学年集会を行う。

2 部活動について

(1) 部活動種目の見直し 新高校校内委員会で検討

白石高校 …運動部 8 種目・文化部 10 種目

杵島商業高校…運動部 8 種目・文化部 8 種目

新高校 …運動部 12 種目・文化部 13 種目（現行の部活動をすべて存続させた場合）

(2) 活動場所の割り振り 移動生徒数をシミュレーション

(3) 部活動の際の移動

【例】

- ・ 放課後にバスを 3 往復（部活動開始・終了時とその中間）させる。
- ・ 活動場所が帰路にあるものは、自転車や公共の交通機関等で各自移動させる。（自転車で 20 分程度か）
- ・ 平日の合同練習を週 3 日とし、その日はバスを運行する（高校総体、新人戦前などはこの限りでない）。

3 職員配置・会議の在り方及び職員の移動について

(1) 管理職の配置

【例】

- ・ 学校長は曜日ごとに、それぞれの校舎で勤務する。
- ・ 学校長は一方の校舎に常駐し、もう一方の校舎に副校長を配する。

(2) 校務分掌主任の配置

【例】

- ・ 分掌主任は一方の校舎にまとめる。
- ・ 分掌主任と副主任をバランスよく両校舎に分散させる。
- ・ 両校舎それぞれに分掌主任を配する。

(3) 会議の在り方

【例】

- ・ 職員会議等は、どちらか一方の校舎において合同で実施する。
- ・ 職員会議等は、それぞれの校舎で実施する。（その場合、全管理職はどちらの会議にも出席する）。
- ・ 年度当初、学校祭、高校入試等に関する会議は合同、それ以外は校舎単独で実施する。
- ・ 運営委員会も職員会議に準じる。

(4) 職員の移動

・ 職員の移動は、原則公用車または自家用車で行う。

- ・ 校舎間の移動が少なくなるよう時間割を工夫（他校舎での授業を特定の曜日・時間帯に集める等）する。

4 校時について

- 【例】
- ・ 両校舎で始業・終業時間を統一。
（50分×6限授業 または 50分×7限授業）
...部活動開始時間は同じ
 - ・ 学科（校舎）ごとに始業・終業時間を別に設定。
（普通科：50分×7限授業、商業科：50分×6限授業）
...部活動開始時間に差、ただし、移動時間があるため、影響は小さいか？

5 その他

- ・ 校務分掌の見直しについて（校内検討）
- ・ 校舎間の連絡手段について（校内検討）

【参考：現行の部活動】

	白石高等学校	杵島商業高校
運動部	・野球 ・陸上競技 ・剣道 ・バレーボール ・バスケットボール ・テニス ・弓道 ・サッカー	・野球 ・陸上競技 ・柔道 ・バレーボール ・バスケットボール ・ソフトテニス ・卓球 ・ボクシング
文学部	・新聞 ・図書 ・科学 ・美術 ・音楽 ・家政 ・茶道 ・JRC ・放送 ・書道	・新聞 ・美術 ・放送 ・茶道 ・プラスバンド ・英会話 ・ビジネススキル ・情報処理

【参考：現行の校時表】

(50分校時)

	白石高等学校
職員朝礼	8:05 ~ 8:15
SHR	8:15 ~ 8:25
1限目	8:30 ~ 9:20
2限目	9:30 ~ 10:20
3限目	10:30 ~ 11:20
4限目	11:30 ~ 12:20
昼休み	12:20 ~ 13:05
5限目	13:05 ~ 13:55
6限目	14:05 ~ 14:55
掃除	14:55 ~ 15:10
7限目	15:15 ~ 16:05
終礼	16:05 ~ 16:10

	杵島商業高等学校
職員朝礼	8:30 ~ 8:35
朝読書	8:40 ~ 8:50
SHR	8:50 ~ 9:00
1限目	9:05 ~ 9:55
2限目	10:05 ~ 10:55
3限目	11:05 ~ 11:55
4限目	12:05 ~ 12:55
昼休み	12:55 ~ 13:40
5限目	13:40 ~ 14:30
6限目	14:40 ~ 15:30
掃除	15:30 ~ 15:45
SHR	15:45 ~ 15:50

(45分校時)

終業時間 15:35

(45分校時)

終業時刻 15:20

《参考：杵島地区シミュレーション》

生徒	部活動	<p>①スクールバスによる移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片道10～15分 ・ 移動させる生徒数を調査の上、車の大きさや往復回数を検討。 ・ 平日のうち3日間だけバスを運行し、2日間は各校で練習(もしくは1日は休養日)、土日は現地集合などの方法もあり。 ・ 白石町の協力を得て、コミュニティバス(いこカー、あいのりタクシー(どちらもタクシー会社に委託))を走らせてもらえるか。 <p>②自転車による移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片道20～30分 ・ 校舎間を結ぶ最短ルートには、ほぼ全区間に歩道あり。車の交通量もそれほど多くはない ・ 通行上の安全に加えて、夜間通行時の安全性にも配慮が必要。 <p>※ 便数は少ないが、白石ー山口駅前間を路線バス(祐徳バス)が運行している(290円)。山口駅前ー杵島商校前間も路線バス(祐徳バス)が運行しているが、乗り継ぎに適当な便がない。山口駅前から杵島商業高校までは3km強の距離がある。</p>
	合同行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式典(入学式、卒業式)はバス2台をチャーターし、杵島校舎1学年80人を白石校舎へ移動させる。周年行事等もバス移動。 ・ 終日かけて行われる行事(学校祭、クラスマッチ等)は、会場となる校舎に各自集合。 ・ その他、学年集会、進路集会、各種講演会等については要検討。 <p>※ 学校としての一体感を醸成するため、ある程度の合同行事は確保したい。</p>
	授業 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合選択制を導入するのであれば、授業時間中に動かせるスクールバスが必要。授業のための設備が特に必要なければ教諭を移動させて対処する。 ・ 両校舎の進学希望者、就職希望者また看護系進学希望者等を一括で指導できるようにするため等、生徒の学習指導のための移動を検討する必要がある。
教職員	部活動指導 合同行事 授業 会議・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用車、あるいは公用車を利用する。 ・ 移動は出張扱いとする(兼務校で終日勤務する場合は通勤手当に反映)。

資料5 他県事例

串本古座高等学校（和歌山県）

1 沿革

H20 串本高校（普通科、国際教養科）と古座高校が統合

古座校舎については、H20年の統合の際、分校舎の存続期間についての明言が避けられたことから、今後数年の動向次第では分校舎の廃止・完全統合の可能性もある。

2 学科と募集定員・後期選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
串本校舎	普通科	120	0.87	285		
古座校舎	普通科	40	1.05	181		

（H26 和歌山県全体の倍率 全日制 1.01 一般選抜）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 9.2 km】

(1) 串本校舎（旧串本高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町串本 1522

設置学科

- ・普通科（情報コース、文理コース）

(2) 古座校舎（旧古座高校校舎）

住所 和歌山県東牟婁郡串本町中湊 370

設置学科

- ・普通科（国英数習熟度別展開）

4 卒業後の状況（平成 25 年度）

校舎	大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
	国公立	私立	国公立	私立			
串本	/	/	/	/	/	/	/
古座	0	10	0	0	0	14	/

(1) 主な合格先

- ・ 私大・その他 大阪学院大、大阪商業大、岡山理科大、同志社女子大 等

(2) 主な就職先

- ・ データなし

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 9(9) 計 18(17) () は古座校舎

6 職員数 4 学級、160 人 / 学年 - 教員数 47 人

《学校概要》

- ・ 生徒減に応じた高校再編の一環として校舎制を導入。（再編統合は地域、同窓会、保護者等反対が多かった）
- ・ 職員数は教諭 34 人 + 常勤講師 3。内訳は串本校舎（3 学級）25+2、古座校舎（1 学級）9+1
- ・ 校長は串本校舎にすることが多いが、必要に応じて両校舎間を行き来。
- ・ 両校地に副校長はおらず、教頭が「校舎長」の肩書で代決。分掌主任は両校舎に配置。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、芸術鑑賞会のみ。入学式、卒業式、体育祭、文化祭、始業式、終業式はそれぞれ別々に実施。（入学式、卒業式、始業・終業式での校長の移動は、開始時間をずらして対応）。授業での生徒の移動は一切なし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、シャトルバス（20 数名乗り）を毎日県費で 3 往復運行（考査期間中は除く）。経費は約 640 万円、平成 27 年度からは約 1,250 万円になる予定。

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 芸術と家庭科の教員が、曜日ごとに各校舎間を移動。（出張扱い。時間割を工夫）

《その他》

- ・ 学校の一体感醸成のために、校歌・校章を新たに作り、制服を同一のものにした。
- ・ 古座校舎は少ない教員数ながら、数学・英語で習熟度別展開授業を実施している。（持ち時間数がかかなり多くなるので、教頭も授業を行う）

真庭高等学校（岡山県）

1 沿革

H23.4 岡山県立落合高等学校（普通科、看護科、専攻科）と岡山県立久世高等学校（生産生物科、食品科学科）が合併統合。

2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H26 募集 定員（人）	志願倍率 （H26）	H25 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
落合校地	普通科	80	0.45	58	59	68
	看護科	40	0.75	30	34	38
久世校地	生物生産科	35	1.17	29	34	33
	食品科学科	35	1.06	35	38	33

（H26 岡山県全体の倍率 全日制 1.16 普通科 1.09 専門学科 1.32）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 6.4 km】

(1) 落合校地（旧落合高校校舎）

住所 岡山県真庭市落合垂水 448-1

設置学科

- ・普通科、看護科、専攻科

(2) 久世校地（旧久世高校校舎）

住所 岡山県真庭市中島 143

設置学科

- ・生物生産科、食品科学科

4 卒業後の状況

(1) 主な合格先（過去5年間）

- ・ 国公 岡山大、静岡大、鳥取大、島根大、山口大 等
- ・ 私大・その他 中央大、立教大、京都産業大、立命館大 等

(2) 主な就職先

- ・ 日本郵政公社、真庭消防本部、事務、製造、販売サービス 等

5 部活動 体育系 9(8) 文化系 6(5) 計 15(13) ()は久世校地

・ 両校地の合同チームで活動

6 職員数 4学科、5学級、190人/学年 - 教員数 50人（校長、講師除く）

《学校概要》

- ・ 3年前に再編整備により校地制を導入。（導入には同窓会の反対があった）
- ・ 岡山県では「校舎制」ではなく、「校地制」と呼びならわしている。
- ・ 教員数は50人（教諭46＋常勤講師4）。内訳は落合校地（28+3）、久世校地（18+1）
- ・ 校長は月水木が落合校地、火金が久世校地での勤務。
- ・ 両校地に副校長配置（校長不在の曜日の代決を行う）。教頭は落合校地に1名配置。
- ・ 分掌主任（課長）は年度ごとに校地間でローテーション（学年主任も含む）。
- ・ 両校地で同じ制服を採用している。

《行事等、及びそれに伴う生徒の移動》

- ・ 合同の行事は、入学式、卒業式のみ。（大型バスで落合校地に移動）
- ・ 今年から、合同行事として1年次に久世校地で農業体験を実施している（1日）。
- ・ 来年は、落合校地での看護体験を実施する予定。
- ・ 授業での生徒の移動はなし。
- ・ 部活動に伴う生徒の移動は、中型バス（スクールバス）で週に2日間（月金）のみ送迎。県により予算化されている（72万円/年、38往復分） 実際は若干予算不足らしい

《教諭の兼務、及びそれに伴う教諭の移動》

- ・ 両校舎を兼務しているのは理科、芸術の教諭（普通教科は年により異なる）。時間割を工夫し、曜日で出勤する校舎を変わるようにしている。
- ・ 授業や部活動の移動の際は自家用車を使用。（出張扱い）

《その他》

- ・ 部活動の大会等は合同チームで出場。活動が活性化している。
- ・ 制度導入時は、生徒よりも教員が戸惑っていた。
- ・ 普通科の定員割れを何とかすることが今後の課題。（H26 普通科志願倍率0.45倍）

阿蘇中央高等学校（熊本県）

1 沿革

H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

2 学科と募集定員・一般（後期）選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H27 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
阿蘇キャンパス	普通科	120	0.55	65	80	65
	総合ビジネス科	40	0.14	23	35	19
阿蘇清峰キャンパス	農業食品科	40	0.45	29	37	25
	グリーン環境科	40	0.15	18	19	9
	社会福祉科	40	0.00	20	14	23

（H27 熊本県全体の一般（後期）倍率 全日制 1.03）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 3.1 km】

(1) 阿蘇キャンパス（旧阿蘇高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2460
設置学科
・普通科、総合ビジネス科

(2) 阿蘇清峰キャンパス（旧阿蘇清峰高校校舎）
住所 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 4131
設置学科
・農業食品科、グリーン環境科、社会福祉科

4 卒業後の状況（過去 3 年間）

(1) 主な合格先

- ・ 国公 九州大、広島大、東京学芸大、熊本大、佐賀大、鹿児島大 等
- ・ 私大・その他 同志社大、立命館大、帝京大、東海大 等

(2) 主な就職先

- ・ 自動車、電気、販売、福祉、ホテル、病院 等

5 部活動 体育系 17 文化系 15 計 32

6 職員数 5 学科、7 学級 280 人 / 学年 - 教員数 76 人

《校舎制高校の運営上、留意すべき点について》

- ・ 各校舎単位での運営体制をとる必要がある。そのため副校長が阿蘇清峰校舎に、教頭が阿蘇校舎に常駐し、校長は月・水・金は阿蘇清峰校舎、火・木は阿蘇校舎に常駐している（ただし、実際は校長は校舎間を移動していることが多い）
- ・ 教務、進路、生徒指導、総務は各校舎にそれぞれ 1 人主任をおいている。
- ・ 両校舎合同での職員会議は年 2 回（年度当初、選抜試験前）だが、管理職、各分掌、各教科で、校舎間の連絡を密にしている。（週 1 回、合同の管理職の打ち合わせを行っている）
- ・ 時間割は一定条件のもと各校舎で作成した後に調整するが、摺合せが大変である。
- ・ 時間帯は同じだが、学科・コースによって総単位数（1 週間当たりの授業コマ数）が異なっている。
- ・ 各学科が複数の類型を持ち、なおかつ総合選択制を実施しているため、選択科目等の関係でカリキュラムは複雑化する。

《生徒・職員の移動について》

- ・ 生徒の移動を伴うのは、授業（総合選択制）、合同行事、部活動等である。
- ・ バス会社との打合せや連絡・調整等、生徒の移動に関する業務を専門的に行う担当者が必要である（主幹教諭が担当）

生徒の移動手段

授業（総合選択制）	毎週火・木	中型バス	引率なし（バス乗降時の点呼のみ）
合同行事	不定期	大型バス	引率あり
部活動	毎日	自転車・徒歩	阿蘇校舎の生徒は送迎が多いため、徒歩移動がほとんど

- ・ 入学式、卒業式の際は、保護者用のバスも準備する。
- ・ バスは年間計画をバス会社に提出して契約。変更分を含めて直近 2 ヶ月分の予定表を提出。変更については（事前に変更の可能性を連絡しておけば）当日朝まで対応してくれる。
- ・ バス使用料は県費（今年度 1,400 万程度）で、生徒負担は無し。
- ・ 部活動のための移動は、生徒各自で行う。ほとんどの生徒が 30 分程かけて徒歩で移動している。移動ルートのほぼすべてに歩道が設置されている。特に交通指導等はしていない。
- ・ 職員は、バスで引率する以外は各自で移動する。特に手当等は支給されない。
- ・ 両校舎を兼務する職員は例年 3 ~ 4 名（地歴科と芸術科）。移動のための時間割には配慮するが、曜日固定はしていない。
- ・ 職員会議や職員研修（両校舎合同）等、多くの職員の移動が必要な行事は、定期考査中の午後や長期休業中に設定している。
- ・ バス移動に要する時間は、点呼・乗車 移動 下車・点呼まで 25 分。その間、一方の校舎では清掃の時間を入れて対応している。

《合同行事の実施状況について》

- ・ 合同で行っている行事は、各式典（入学式・卒業式・始業式・終業式・対面式）、宿泊研修（1 年次）、体育祭・文化祭、農業体験（田植え・稲刈り・収穫感謝祭）、修学旅行、芸術鑑賞会、ロードレース大会、クラスマッチ（年 1 回）と非常に多い。

- ・ 式典関係はすべて阿蘇校舎で行う（阿蘇清峰校舎の生徒が移動）。
- ・ 1年生の4月に宿泊研修、5月に体育祭と、年度当初に大きな合同行事を入れることで交流が広がり、学校としての一体感も醸成される。
- ・ 一時期合同行事が縮小されつつあったが、その重要性が認識され、昨年度からまた盛んに行われることとなった。

《諸業務について》

- ・ 合同の職員会議は年2回（再掲）。運営委員会も原則としてそれぞれの校舎ごとで行う（阿蘇清峰校舎は副校長をトップとし、校長は参加しない）。
- ・ 分掌、教科の打合せは、基本的に電話とメールで行い、必要に応じて一方の校舎に出向く。
- ・ 学年の取りまとめとして、学年主任と副主任を別の校舎に置く。
- ・ 各種証明書は両校舎で発行できる（一部阿蘇校舎でのみ）。
- ・ 予算に関しては校舎ごとに積み上げたものを予算要求するが、必要に応じて校舎間で融通をつける。（事務長は阿蘇校舎常駐）

新見高等学校（岡山県）

1 沿革

H19.4 岡山県立新見高等学校（普通科）と岡山県立新見北高等学校（農業、工業、商業）が統合

2 学科と募集定員・一般選抜の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H27 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
南校地	普通科	105	0.97	103	92	112
北校地	生物生産科	30	0.60	26	30	27
	工業技術科	35	1.22	35	40	37
	総合ビジネス科	35	0.72	30	30	40

（H27 岡山県全体の倍率 全日制 1.14）

3 各校地の状況 【校地間の距離約 950m（学校間き取りでは 700m）】（参考資料 1 参照）

(1) 南校地（旧新見高校校舎）

住所 岡山県新見市新見 1394

設置学科

- ・ 普通科（単位制、2 学期制）

特色・位置づけ

- ・ 国立大学進学を基本とした進学指導

(2) 北校地（旧新見北高校校舎）

住所 岡山県新見市新見 1994

設置学科

- ・ 生物生産科、工業技術科

総合ビジネス科

（単位制、2 学期制）

4 卒業後の状況（平成 26 年度）

大学		短大		大学校	専門 学校	就職・その他
国公立	私立	国公立	私立			
32	131	1	2	0	10	67

進学実績は普通科のみ、就職実績は全学科のもの

主な合格先

- ・ 国公 島根大(7)、徳島大(4)、香川大(4)、岡山大(2)、岡山県立大(2)、高知大(2)
- ・ 私大・その他 京都産業大、大阪経大、関西大、近畿大 等

5 部活動 体育系 13 文科系 13（含 同好会） 計 26 殆どの部活が合同で活動

6 職員数 4 学科、6 学級、205 人 - 教員数 45 人
（校長、副校長、養護教諭、講師は除く）

岡山県立新見高校学校視察記録（視察日：平成 27 年 11 月 20 日）

(1) 校舎制導入の背景について

- ・ 新見地区は岡山県の平成 20 年度の再編計画において再編対象となったが、学校規模がまだ大きい状況での再編であったため、施設・設備的に何れかの校地に全てが収まりきらず、校舎制で再編することとした。

(2) 校舎制のメリット・デメリット

メリット

- ・ 校地毎に校時、学科、行事等が異なっても、お互いの影響を受けずに授業を行うことができる。
- ・ 体育館やグラウンドが同規模校の 2 倍あり、授業や部活を行いやすい。
- ・ 国や県からの調査や文書の提出を、それぞれの校地の課長で役割分担して行うことができる。

デメリット

- ・ 連絡の不徹底による行き違いや、業務の重複。校舎間で十分な意思疎通がやりにくい。

(3) 職員・生徒の配置と移動状況について

生徒の配置

- ・ 南校地に普通科。北校地に生物生産科、工業技術科、総合ビジネス科を配置している。

生徒の移動

- ・ 授業に伴う生徒の移動はない。部活動は自転車でそれぞれの部活の練習場所へ移動している。
- ・ 体育祭（南校地で実施）、卒業式（交互に実施）の際は、歩いて移動。
- ・ 授業の際の生徒の移動は無いが、毎日の部活動で生徒は良く交流している。

職員の配置

- ・ 教員は基本的にはそれぞれの校地に配置。音楽と書道の教員のみ兼務。（音楽＜本務 南校地、月曜のみ北校地勤務＞、書道＜本務 北校地、木曜のみ南校地勤務＞）
- ・ 分掌の課長はそれぞれの校地に 1 人ずつ配置。
- ・ 加配は初任研加配のみ（南校地）

職員の移動

- ・ 両校地間の距離は約 700m（佐賀県立図書館から赤松小前までくらいの距離）。車通りの多い国道を移動する。南校地から北校地へは、坂を上る形になる。
- ・ 芸術科の兼務 2 人以外は他の校地での授業は無い。兼務教員も曜日で勤務校舎を固定。
- ・ 部活動、職員会議、行事の際は主に自家用車で移動する。
（南校地の職員昇降口に移動してきた北校地の職員用の下足箱を準備）

(4) 校務分掌、諸会議等の在り方について

- ・ 合同の職員会議は年 3 回（年度初め、2 学期直前、3 学期）南校地で実施。
- ・ 校地ごとの職員会議は月 1 回。ただし、もう一方の校地の副校長（教頭）も参加する。
- ・ 週の初めに管理職（校長、副校長、事務部長）の打ち合わせ会を実施。
- ・ 年度の初めに、両校地合同部活動顧問会議を実施。

(5) その他、校舎制高校の運営上、特に留意すべき点について

- ・ 行事予定表に両校地の予定を記載。お互いの動きを意識して業務に当たるようにしている。
- ・ 校地間に IP 電話を開設（事務室、各科、保健室）
- ・ 同窓会については、それぞれの同窓会が主体的に発展的解消を行い、一つの組織となっている。
- ・ PTA は両校併せて 1 つの組織としている。隔年で一方の校地から PTA 会長、他方の校地から会長代理を選出している。

(6) 合同行事について

- ・ 1 学期始業式、入学式、新入生宿泊研修
- ・ 修学旅行（出発・帰着は同じ。ただし、コースの中身（ルート）は異なる）
- ・ 心肺蘇生法講習会、体育祭（9 月南校地で実施 北校地のグラウンドは狭く、隣の小学校と共用）
- ・ 芸術鑑賞会（隔年でそれぞれの校地で実施）、ウォーキング大会
- ・ 入学者選抜（南校地で一括実施。ただし 2 次募集は校地別）、卒業式、3 学期終業式

塩釜高等学校（宮城県）

1 沿革

H22 宮城県塩釜女子高等学校（普通科）と（旧）塩釜高等学校（普通科、商業科）が統合。共学制の宮城県塩釜高等学校として開校。

2 学科と募集定員・一般入試の志願倍率

校舎	学科	H27 募集 定員（人）	志願倍率 （H27）	H26.9 の在籍者（人）		
				1年	2年	3年
東キャンパス （1、2年生）	普通科	320	1.51	320	318	
	ビジネス科	80	1.30	79	79	
西キャンパス （3年生）	普通科					311
	ビジネス科					78

（H27 宮城県全体の倍率 全日制 1.22 後期選抜）

3 各キャンパスの状況 【キャンパス間の距離 500m】 裏門・通用口等を利用した場合は 100m 程度

（参考資料 1 参照）

(1) 西キャンパス（旧塩釜高校校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡 10 番 1 号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 塩釜高校の本校舎としての位置づけ
- ・ 3 年生が通学

(2) 東キャンパス（旧塩釜女子高校校舎）

住所 宮城県塩竈市泉ヶ岡 7 番

1 号

設置学科

- ・ 普通科、ビジネス科

特色・位置づけ

- ・ 1, 2 年生が通学

4 卒業後の状況（平成 25 年度）

課程	大学		短大		大学校	専門 学校	就職
	国公立	私立	国公立	私立			
普通科	7	91	0	24	0	92	85
ビジネス科	1	9	0	3	1	4	50
計	8	100	0	27	1	96	135

(1) 主な合格先

- ・ 国公 宮城教大(1)、宮城大(2)、福島大(3)、山形大(2)
- ・ 私大・その他 東北学院大、宮城学院女子大、仙台大等

(2) 主な就職先

- ・ 仙台市役所、七十七銀行、アイリスオーヤマ、仙台三越等

5 部活動 体育系 24 文化系 20 計 44

6 職員数 2 学科、10 学級、400 人 / 学年 - 教員数 76 人

宮城県塩釜高校学校視察記録（視察日：平成 27 年 11 月 18 日）

(1) 校舎制導入の背景について

- ・ H22（2010）年、宮城県塩釜女子高校（普通科）と旧宮城県塩釜高校（普通科、商業科）を再編して開校。男女共学化を進めるための再編であり、募集定員減によるものではない。
- ・ 立地に恵まれていて、列車等の交通の便がよく志願倍率も高い。従って少子化の影響は少ない。

(2) 校舎制のメリット・デメリット

メリット

- ・ 体育館やグラウンドがそれぞれ 2 校舎分あるため施設は充実しており、部活動も盛んである。
- ・ 3 年生になる時に校舎を変わるため、新鮮な気持ちで臨むことができる。また、2 年生は、校舎での最上級生としてのびのびと行動している。

デメリット

- ・ 生徒の移動の際には公道を通るため、移動経路に教員が立って交通指導を行う必要がある。
- ・ 3 年生が別校舎にいるため、下級生に 3 年生の頑張りを見せることができない。
- ・ 実質的に 2 校舎を運営しているが、あくまで 1 つの学校としての扱いであるため、1 校舎分の予算しかつかず、年度途中で足りなくなる（予算要求は 2 校舎分の見積もりで行っている）
- ・ 職員配置が厳しいため、先生方の持ち時間が多くなる。（平均普通科 16 時間、商業科 19 時間）

(3) 職員・生徒の配置と移動状況について

生徒の配置

- ・ 西キャンパスに普通科の 3 年とビジネス科を、東キャンパスに普通科の 1、2 年を配置。

生徒の移動

- ・ 通常生徒を移動させるのは放課後の部活動のみ。
- ・ 合同行事は、文化祭、体育祭、始・終業式、進路講演会等であり、その際には職員が移動経路に立って交通指導を行う。
- ・ 入学式、卒業式に際しては、西キャンパスで行い、在校生は出席しない（生徒の移動なし）

職員の配置

- ・ 校長は西キャンパスに 3 日、東キャンパスに 2 日の勤務。ただし、東キャンパス勤務の時は、午後は西キャンパスへ移動する。
- ・ 教員の配置についてはすべて標準法通りで、特に加配はない。
- ・ 兼務している教諭は、1 1 人（地歴 2 人、数学 2 人、理科 3 人、英語 2 人、家庭 2 人）

職員の移動

- ・ 兼務する教諭の移動時間が 10 分～15 分かかるため、前の時間を空けておかなければならず、勤務時間内で教科・学年会議等が組みにくい。
- ・ 兼務する教諭の移動は、1 日 1 回ですむように、時間割の配慮をしている。
- ・ 地図上では近距離に見えるが、実際の両キャンパス間の距離は 600～700m ほどあり、起伏の大きい地形で、移動する際には階段の上り下りも多く、授業間の 10 分での移動は難しい。

(4) 校務分掌、諸会議等の在り方について

- ・ 主たる分掌（教務、進路、生徒指導）の主任は西キャンパスに在籍。
- ・ 職員会議は西キャンパスに全員移動して行う（短縮校時にして可能な限り勤務時間内に収めるように配慮）
- ・ 時間割の中にあらかじめ会議の時間を入れることができないため、会議は全て放課後に行っている。

(5) その他、校舎制高校の運営上、特に留意すべき点について

- ・ 時間割は普通科とビジネス科で揃えている（週 32 時間）が、放課後に補習を行うこともある。
- ・ 両校舎間で綿密に連絡が取れるようにしておく。塩釜高校では校舎間で内線を 2 回線引いている。さらに校舎間の LAN ネットワークを構築している。
- ・ 同窓会は旧塩釜高校の方に統合されている。

(6) 校舎制の影響について

- ・ 合同行事も実施しており、生徒たちには 1 つの高校としての一体感はあると思う。

他県の校舎制の状況

※大津緑洋高校は平成26年2月、それ以外の高校は平成26年12月の調査

高校名	校舎間距離	合同行事・授業 (移動を要するもの)	生徒の移動手段等	教諭の移動状況	その他
岩ヶ崎高校(宮城県) 岩ヶ崎校舎 鷲沢校舎	6.7km	・入学式、卒業式、文化祭、球技大会、部活動	・各自で移動 ・バイク通学者が多いので、バイクあるいは路線バス(中高生は市内100円)を利用	・2校兼務は公民、物理、家庭、体育(各1人)の4人 ・週2日(曜日固定) ・通勤手当が支給	管理職は 岩ヶ崎校舎:校長、教頭1人 鷲沢校舎:副校長1人
飛騨高山高校(岐阜県) 岡本校舎 山田校舎	2.1km	・入学式、卒業式、統一生徒会、学習成果発表会、総合選択制授業(週2日)、部活動	・各自で移動 ・卒業式のみ貸し切りバスを利用(PTA費) ・校外で実施する行事は現地集合	・2校兼務は音楽、書道(各1人)の2人のみ ・週2日(曜日固定)	管理職は 岡本校舎:校長、教頭2人 山田校舎:副校長1人、教頭1人
和歌山北高校(和歌山県) 北校舎 西校舎	7.2km	・新入生歓迎会、観劇会、体育祭(校外の施設で実施) ・体育系授業(週2回)、部活動	・部活動、授業はバスを利用(朝夕各4台、昼1台) ・路線バスを契約、経費は年間約2,000万円(県費)	・2校兼務は非常勤講師のみ ・部活動指導のための移動は出張扱い	管理職は 北校舎:校長、教頭1人 西校舎:教頭2人
海南高校(和歌山県) 海南校舎 大成校舎 (併せて分校2、定時制1)	8.1km	・部活動以外は、年に1～2回の生徒会交流のみ	・各自で移動	・2校兼務はなし	管理職は 海南校舎:校長、教頭1人 大成校舎:教頭1人 ・将来的に大成校舎が募集停止となる可能性が高い
串本古座高校(和歌山県) 串本校舎 古座校舎	9.2km	・部活動以外は、芸術鑑賞会のみ	・シャトルバス(20数名乗り)を毎日3往復運航 ・経費は年間約640万円(県費 来年度から経費増の予定)	・2校兼務は芸術(2人)家庭(1人)の3人 ・曜日固定 ・出張扱い	管理職は 串本高校:校長、教頭1人 古座高校:教頭1人 (教頭は「校舎長」として代決可)
京都八幡高校(京都府) 北キャンパス 南キャンパス	2.9km	・入学式、卒業式、体育祭、文化祭、マラソン大会、部活動	・各自で移動	・2校兼務はなし	管理職は 北キャンパス:校長、副校長2人、教頭1人 南キャンパス:副校長1人、教頭1人
井原高校(岡山県) 北校地 南校地	0.7km	入学式、卒業式、体育祭、始業式、終業式、講演会、部活動	・各自で移動(徒歩)	・2校兼務は国語、音楽(各1人)の2人のみ ・曜日固定なし	管理職は 北校地:校長、副校長1人 南校地:副校長1人 ・校長は北校地3日、南校地2日
真庭高校(岡山県) 落合校地 久世校地	6.4km	・部活動以外は入学式、卒業式のみであったが、今年度から農業体験、来年度から看護体験を実施	・入学式、卒業式は大型バスを利用 ・部活動の移動は、週2日スクールバスを運行(それ以外の日は各校地で活動) ・経費は年間72万(県費)	・2校兼務は理科、芸術 ・曜日固定 ・出張扱い	管理職は 落合校地:校長、副校長1人、教頭1人 久世校地:副校長1人 ・校長は落合校地3日、久世校地2日、副校長は校長不在時の代決可
阿蘇中央高校(熊本県) 阿蘇キャンパス 阿蘇清峰キャンパス	3.1km	・入学式、卒業式、始業式、終業式、体育祭、文化祭、クラスマッチ、農業体験、必要に応じて学年集会、総合選択制授業、部活動	・部活動は各自で移動 ・行事・授業(2・3年生各週1日)の移動は貸し切りバスを利用 ・経費は約700万円(県費 来年度からは経費大幅増の予定)	・2校兼務は地歴・公民、体育、芸術(各1人)の3人 ・曜日固定 ・手当は特になし	管理職は 阿蘇キャンパス:校長、教頭1人 阿蘇清峰キャンパス:教頭1人
大津緑洋高校(山口県) 大津キャンパス 日置キャンパス 水産キャンパス	大津ー日置 9.4km 大津ー水産 1.6km 日置ー水産 10.2km	・学習成果発表会、農業体験、航海体験、野球部1回戦全校応援、部活動	・部活動の移動はバス2台を運行 ・経費は年間約4,000万円(県費)	・兼務はなし ・部活動、行事での移動は出張扱い	管理職は 大津キャンパス:校長、副校長1人 日置キャンパス:副校長1人 水産キャンパス:副校長1人、教頭1人 ・校長は大津キャンパス3日、日置キャンパス、水産キャンパス各1日 ・副校長(校長格)が一部決裁可

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。

- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
- 二 新高校の施設・設備に関すること
- 三 新高校への円滑な移行に関すること
- 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。

- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

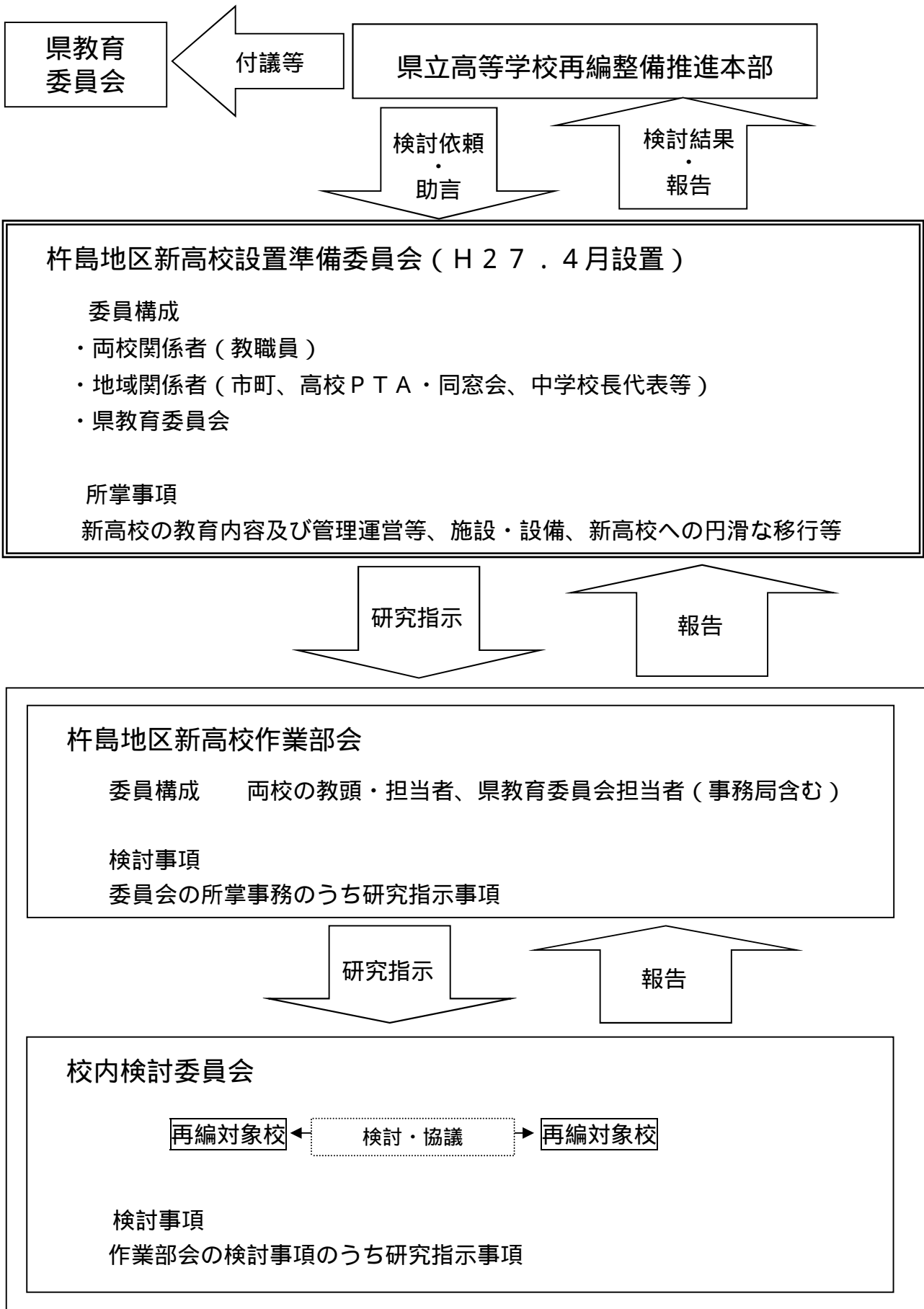
(補足)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

杵島地区新高校設置に向けた検討体制



資料8 杵島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考	
1	白石高等学校学校校長	荒谷 弘幸	委員長・学校関係者	
2	杵島商業高等学校校長	木村 もと	副委員長・学校関係者	
3	白石高等学校教頭	本告 靖之	学校関係者	
4	杵島商業高等学校教頭	北島 直幸		
5	大町町教育長	前川 幸治	大町町	市町関係者
6	大町町生活環境課長	小木 誠		
7	白石町教育長	江口 武好	白石町	
8	白石町副町長	百武 和義		
9	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市	
10	江北町教育長	赤坂 章	江北町	
11	白石高等学校 同窓会代表	川崎 光春	地元関係者	
12	杵島商業高等学校 同窓会代表	黒岩 勝弘		
13	白石高等学校 P T A代表	溝口 哲也		
14	杵島商業高等学校 P T A代表	田中 浩吉		
15	白石町立白石中学校校長	平川 年明	中学校関係者	
16	武雄市立川登中学校校長	植松 和彦		
17	教育政策課長	八谷 幸浩	県教委関係者	
18	教育情報課長	碓 浩一		
19	教職員課長	福地 昌平		
20	学校教育課長	松尾 敏実		
21	保健体育室長	三上 智一		
22	教育支援課長	源五郎丸 靖		
23	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章		
24	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰		
事務局	白石高等学校教諭	本村 邦彦		
		副島 博孝		
	杵島商業高等学校教諭	松浦 昌彦		
		中村 桂子		
県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄			
県立高校再編整備推進室 企画主査	椋島 秀樹			